

令和7年度 江東区立南陽幼稚園 自己評価表

園長名 鳥居 三千代

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		基本的な生活習慣の確立			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	○一人一人の幼児に自分のことは自分で行うという意欲がもてるよう、保護者と協力して取り組み、個別のねらいを達成する。	89%	○発達段階を踏まえながら、こどもたちが自分のことは自分であるという意欲をもって園生活を送る100%	97%	A
2	○教師が挨拶や必要な言葉の大切さを知らせ、モデルを示し、気持ちのよい挨拶や言葉を意識できるようにする。	97%	○「おはようございます」「さようなら」「ありがとう」「はい」など、挨拶の意味が分かり、言う幼児100%	94%	A
3	○「早寝・早起き・朝ごはん」の発信を保護者会・学級懇談会、園・学級だより等で、年3回行う。	94%	○幼児期に望ましい生活リズム「早寝・早起き・朝ごはん」を実施する家庭100%	97%	A
<p>&lt;結果についての分析と改善策&gt;</p> <p>○全ての結果がAであった。</p> <p>○基本的な生活習慣の確立が、幼児の発達の土台となるということが、保護者に理解を得られている。また、我が子に身に付けてほしいと願っていることも分かり、来年度も、基本的な生活習慣の大切さを発信するとともに、個々に保護者の悩みに寄り添いながら、共に幼児を育む姿勢を示していく。</p>					

重点領域 2		体力の向上・健康教育			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	○幼児が体を十分に動かすことができる環境の工夫を行う。	94%	○体を動かして遊ぶことを楽しむようになったと感じる保護者アンケート100%	99%	A
2	○週1回は、学級全体の活動で体を動かす遊びを取り入れる保育の組み立てを行う。	93%	○学級全体で行った体を動かす遊びを、好きな遊びの中でも主体的に楽しむ幼児100%	98%	A
3	○講師の招へいや栽培物の収穫・会食等を通して幼児に食の大切さを感じられるようにする。 ○様々な機会を捉え、1日3回の食事を、しっかり食べることの大切さを伝え、意識をもたせる。	90% 90%	○幼稚園は、食育に関わる活動を取り入れ、幼児の健康な心と体を育てようとしていると感じる保護者アンケート100%	98%	A
<p>&lt;結果についての分析と改善策&gt;</p> <p>○全ての結果がAであった。</p> <p>○今後も、学級全体の活動や好きな遊びで教師や友達と楽しみながら、様々な体を動かす遊びを幼児が好きになり、主体的に関わる気持ちももてるよう、教育内容を工夫していく。</p> <p>○食育については、幼児の発達段階に応じて、毎日の弁当・週1回のわくわく給食・幼児の栽培活動などで、様々な物を食すことが健康な体をつくることを、日々幼児や保護者に働き掛けていく。</p>					

重点領域 3		豊かな心の育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語

<様式1>

1	○没頭して遊び、幼児の心を揺さぶる直接体験から遊びの中の学びを確かなものにできるように、豊かな教材素材の準備・自然環境の整備・活動の工夫・見直し・改善を行う。	87%	○幼稚園はこどもたちの心を豊かにする活動や環境、指導を行っていると感じる保護者アンケート100%	98%	A
2	○教師が100%モデルとなり、心地よい人との関わり方を学べるようにする。	90%	○教職員や友達に親しみをもち、関わることを喜ぶ幼児100%	99%	A
3	○友達との関わりの中で、一緒に遊べる楽しさ、互いのよさ、葛藤やトラブルを乗り越えて、また遊ぶことができた嬉しさを感じられるよう、日々援助する。	92%	○3歳児は、教師や友達と一緒に過ごすことを喜ぶ100% ○4歳児は、友達と遊び一緒にいることを喜ぶ100% ○5歳児は、仲間やグループと協同的な活動を行うことを喜ぶ100%	100% 100% 100%	A A A
4	○日々の園での集団生活や、公共施設の利用を通して、楽しく過ごすための約束や必要なルールの意味に気づき、みんなにとってどのようにしたらよいか教師や友達とともに考え、行動できるよう育成する。	89%	○遊びや生活の約束が分かり、守ろうとする幼児100% ○教師と共に自分の言動を振り返り、よりよい行動をしようとする幼児100%	98% 99%	A A
5	○開園50周年に関する活動や行事を幼児の興味・関心に合わせて考え実施し、幼児自体が祝う気持ちをもてるようにする。	88%	○保護者アンケートで、開園50周年に関連する活動や行事を通して、園の50歳を祝う気持ちをもち、喜んで参加していた幼児100%	95%	A

<結果についての分析と改善策>

○全ての結果がAであった。変化の激しい未来を生き抜くための豊かな心を、今後も育んでいきたい。  
○今年度は開園50周年の記念行事があったが、教員が力を合わせ、発達段階に応じて幼児が園の誕生日を祝う気持ち・周囲の皆様へ感謝する気持ちが育まれた。また、保護者・地域の皆様が開園行事について、ご理解・ご協力いただいたことで無事に行われたと大変感謝している。

重点領域4		教師の指導力向上			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	○幼児をまんやかに、一人一人を100%ありのまま寄り添い受け止め、言動を肯定的に捉え、信頼関係を築き、安心して幼稚園に通えるようにする。	91%	○担任・教師に対して安心感・信頼感をもち、安心して自分らしく行動する幼児100%	99%	A
2	○保育の反省・評価を次の環境構成や援助に生かし、明日につながる保育を実践する。	85%	○自ら環境に関わり、直接体験をする中で、興味や関心を広げ、様々な活動に自分から取り組む幼児100%	94%	A
3	○「考える子を育む（仮）」を研究テーマに、3年保育実施園として幼児の実態に即し、事例検討や研究保育を通して環境の工夫や教師の援助を探り、保育に生かす。	90%	○保護者アンケートで、教員の資質向上のための研修や研究は、こどもたちの成長につながっている100%	97%	A
4	○東陽小学校の校内研究（2年目）に参加し、幼児教育の内容を発信し理解を深めるとともに、幼小の互いの教育について考え、教育内容の接続に努める。	87%	○保護者アンケートで幼稚園の遊びの中の学びは、小学校以降の学びにつながっている100%	99%	A

<様式1>

5	○個々の幼児の特性や様子を園の教職員がチームとして情報共有し、寄り添い受け止め、温かい雰囲気での学級経営・園経営を行なう。	93%	○自分の思いを十分に表すとともに、相手の気持ちに気づき、認めようとする幼児100%	98%	A
---	---	-----	---	-----	---

<結果についての分析と改善策>

- 全ての結果がAであった。
- 昨年度から2年間、東陽小学校の校内研究に参加できたことで、小学校教育の理解が深まり、幼小の学びの接続について、一歩前進することができた。
- 今後も教職員が自己研鑽に励み、指導力を向上し、園のこどもたちをまんやかに、質の高い幼児教育を推進していく。

<b>重点領域5</b>	<b>開かれた幼稚園づくり</b>
--------------	-------------------

項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	○保護者との関わりを深め、一人一人の幼児のよさや成長を共有し、随時悩みや相談を受け止める、また、相談機関等との連携、情報共有により、保護者支援の園体制を確立する。	86%	○保護者アンケートで、教職員は相談しやすく、幼児の成長につながったことへの評価100%	97%	A
2	○かんがる一ひろば（未就園児親子登園）の充実や園庭開放の実施を行い、子育ての相談に応じ、区立幼稚園の教育の発信に努める。	90%	○年間21回のかんがる一ひろば・園庭開放を充実した内容にし、参加者アンケートの肯定的な評価100%	98%	A
3	○にこにこたいむ（無料の預かり保育）を行い、子育て支援の充実を図る。 ○幼児期に必要な保護者の家庭での関わり方の理解を深めながら、預かり保育の活用を行い、子育て支援を図る。	89% 90%	○保護者アンケートで、肯定的な評価100%	98%	A
4	○園だより、学級だより、ホームページ・保育参観参加、保護者会、幼児や家庭の実態に合わせた配布物・掲示物等で幼稚園教育を発信する。 ○父母と教師の会の活動、サポーター活動等を通して幼稚園教育の理解を深める。	90% 89%	○幼稚園教育の理解が深まったという肯定的な意見が保護者アンケートで100%	98%	A
5	○保幼小中連携教育の日を中心に、近隣の保育園・小学校・中学校との互いの教育内容の理解を深め、交流活動を行い、幼稚園公開を年間指導計画に位置付け、実施する。 ○就学前教育施設との連携を深め、学びの機会をもち、幼児教育の質の向上を目指す。	91% 88%	○5歳児は、地域の同年齢同士のつながり、小学校入学への期待、中学生への憧れをもつ幼児が100%	95%	A

<結果についての分析と改善策>

- 全ての項目についてAであった。
- 今後も、さらにチームで保護者への子育て支援を行い、幼稚園教育の理解が深まるようにする。
- 地域の保育園・小中学校との連携をさらに深め、こどもたちの学びを確実に繋いでいく。
- 区立幼稚園として地域の未就園児親子の支援について方法を探り、親子が園で過ごす楽しさを感じ、子育ての楽しさを味わうとともに、不安や悩みを受け止めていく。

【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。

A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）

B：50%以上90%未満

C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）